

# タイ語専攻

🌐 タイ語による実践的コミュニケーションの能力を養い、かつそれを基礎にタイの社会的文化的ダイナミズムに対する深い洞察力を身につけたいと考える人。



タイといえば稲作・象・ムエタイ・仏教寺院というイメージを持つ人が多いと思いますが、現在のタイ国は、農林漁業就労者の人口が全就労人口の50%を割り、工業化とサービス産業を中心とした経済成長を遂げている「中進国」です。このようなタイの経済発展・工業化にもっとも深く係わっている国の一つが日本です。たとえば、タイの自動車産業は東南アジアの中心的役割を担っていますが、日本の大手自動車・自動車部品メーカーがそれを支えています。

タイは、豊かな自然環境、開放的で自由な雰囲気、安定した社会体制、物価の安さなど、外国人にとっても大変居心地の良い国であり、タイを訪れる日本人観光客は年間約100万人、長期滞在をする日本人の数は6万4千人（大使館の在留届）にのぼり、短期滞在ビザで滞在する人を含めると、10万人ちかくの日本人がタイで生活しています。また近年訪日タイ人観光客数が急増しており、2016年には約90万人のタイ人が日本を訪れました。日本国内には留学生を含むタイ人長期滞在者が4万5千人います。このように、日本とタイは経済的な面に加え、人的交流の上でも大変密接な関係を築いています。

60年数年の歴史を持つタイ語専攻の卒業生は様々な分野で活躍していますが、特に、日タイ間の架け橋として活躍している人材が多数輩出しています。タイ国内で活躍している卒業生も多く、バンコクの同窓会の活動は非常に活発です。

タイ語専攻では、タイ語の運用能力を養いながら、タイについての総合的な知識を学ぶためのカリキュラムを組んでいます。1・2年次にタイ語の基礎を学び、その上で3・4年次にはタイの言語、社会・文化、政治・経済、文学、歴史について専門的に学べるようになっています。

また、交換留学の協定を結んでいる大学が多いので、3・4年次にタイの大学に留学する学生も多数います。外国語学部をはじめ、大阪大学に留学しているタイ人留学生との交流も盛んで、授業だけではなく、キャンパスライフの中でタイの人と接する機会も多いのも特徴です。

「サワディー」

# สวัสดี

学生の声



3年 北峯 英恵

「タイ語を選んで本当に良かった。」知らず知らずのうちにタイ語の魅力に引き込まれ、「タイ語が大好きだ。」と言えるまでに至ったのは、かけがえのない様々な出会いに恵まれたからではないかと思えます。

私は、言語学習の醍醐味というものは単に単語や文法を覚えて話せるようになることだけではないと考えています。もちろん、日々新しい単語に出会い、その度に辞書を引き、「この単語はこういう意味なのか！」という発見の繰り返しも、なかなか面白いものです。しかしながら、それだけに止まりません。言語を勉強することで、その言葉が話されている国や地域の文化や社会、あるいは歴史についての深い知識を得ることができます。私は、そうした知識の獲得の積み重ねが、果ては多くの人々との出会いに繋がると信じています。こうして出会ったあらゆる人々の考え方やものの見方は、立ち止まって自身のそれを顧みる機会を与えてくれるのです。

タイ語専攻を選んでいただければ、そうした機会がたくさん待っています。面倒見が良く、非常に熱心にご指導して下さる先生方、毎日共に過ごす同回生の仲間、そして先輩と後輩。さらには毎年留学にやってくる多くのタイ人の留学生。タイ語専攻の縦と横の繋がりは非常に強いもので、勉強や留学、就職に関する相談はもちろんのこと、食堂などで他愛もない話をして楽しんだりご飯を食べに出掛けたり。これほど仲の良い専攻は他にないのではないかなと思います。



留学体験記



4年 小川 真奈

私は3年生の8月から5か月間、タイに留学しました。私が通ったタマサート大学ランシットキャンパスは、広大な敷地と豊かな自然が魅力です。日中は韓国や中国の留学生とともにタイ語で授業を受け、放課後にはタイ人学生とクラブ活動をしたり、市場で買い物をしたりしました。

タイでの生活は想像の何倍も新鮮で、楽しいものでした。街には家々に交じって荘厳な寺院や祠が建てられ、たくさんの供え物であふれています。夜になると、歩道や広場には所せましと屋台が並び、人々の活気を感じさせました。色鮮やかに飾り付けた灯籠を流し、川の神様に感謝を捧げるローイクラトン祭りや、街じゅうに装飾が施され、国民全員が国王のイメージカラーをまとって祝う国王陛下誕生日など、タイならではのイベントも体験することができ、その雰囲気を感じることができました。

勉強面では、最初はタイ語でのコミュニケーションがうまくいかず、憂鬱になることもありました。そんな時いつも私を励ましてくれたのが友人や先生の「マイペンライ（大丈夫、気にしなくていいよ。）」という言葉です。タイの方々のおおらかさを表すようなこの言葉のおかげで、現地でのボランティアや通訳の仕事など、新しいことにぶつかっていく勇気をもつことができました。

この留学を通して、大学で学んだことを単なる「知識」ではなく、実際に見て触れた「経験」として身につけられたことが、最大の成果だったと感じています。

